

さふるさとひょうご創生塾と地域活動

(本論)

ふるさとひょうご創生塾神戸交流会 副会長  
自治会を支援する会・西須磨 会長  
藤波 進

## 目次

1. ふたつの兵庫県事業における地域活動の位置づけ
2. 身近で展開されている地域活動  
西灘元気プロジェクト
3. 地域活動の定義
  - 3.1. 一般的な定義
  - 3.2. ここでの定義
4. その他の身近な地域活動の事例
  - 4.1. すまっこ寺子屋 (須磨っこ Terra 小屋)
  - 4.2. 明舞まちづくり委員会
  - 4.3. 身近な活動についてのまとめ
5. 地域活動を担う人の育成の現状
  - 5.1. CS神戸の地域貢献ゼミナール
  - 5.2. 創生塾のしてきたこと
6. 伝統的な地縁組織による地域活動
  - 6.1. 「地域活動ちえぶくろ」における地域活動
  - 6.2. 地域活動デビューの手順
  - 6.3. 鬼頭講師の教え (2022/03/13)
7. 私の体験から (1) 自治会活動をめぐって
  - 7.1. 関守町2丁目自治会 会長として
  - 7.2. 自治会を支援する会・西須磨
8. 私の体験から (2) 最近、出会った人々
  - 8.1. 亀川甲さん
  - 8.2. 星英光さん
  - 8.3. オンバダ香織さん
  - 8.4. 松井由子さん
9. ふるさとひょうご創生塾神戸交流会のこれから

## 1. ふたつの兵庫県事業における地域活動の位置づけ

斎藤元彦新知事を迎え、兵庫県は「こころ豊かな人づくり 500 人委員育成事業」（「500 人委員会」）、「ふるさとひょうご創生塾事業」（「創生塾」）を停止し、令和 4 年度（2022 年度）の新規入塾生募集は行っていません。500 人委員会は平成元年（1989 年）、創生塾は平成 8 年（1996 年）に、いずれも当時の貝原俊民県知事の下で開設されたもので、30 年前後の活動を止めたということになります。

両事業は一定の役割を終えたから終了する、ということになりますが、その卒塾生は残っており、その集団の一つである「ふるさとひょうご創生塾神戸交流会」は、活動を継続することに決めました。その活動の方向性については、「私たちは何をしたいか」と「私たちは何を求められているか」という二つの考え方があります。ここでは、後者の立場から考えていきます。

結論から言うと、卒塾性は、500 人委員会では「青少年育成活動」と「地域づくり活動」、創生塾では「実際の地域活動」が求められてきました。ここでは、「地域づくり活動」と「実際の地域活動」を合わせて「地域活動」とし、その「地域活動」について考えていきます。

以下に検証しますが、「理論的で難しそう」と思われる方は、読み飛ばして「2. 身近で展開されている地域活動」に進んでください。

まず、お隣の「こころ豊かな人づくり 500 人委員会」から見てみます。

### こころ豊かな人づくり 500 人委員育成事業

「こころ豊かな美しい兵庫」の実現に向けて、次代を担う青少年の健やかな成長や夢の実現を応援する人材を育てるセミナーです。… そして、修了後には、地域・職場・団体などで青少年育成活動や地域づくり活動に積極的に参画することで、県民運動の輪が一層広がっていくことを願っています。… 平成 29 年度からは、地域セミナーとして地域の子育てや体験活動など地域毎にテーマに沿ったカリキュラムを充実させ、大幅にリニューアルしました。

[https://seishonen.or.jp/honbu/?page\\_id=6033](https://seishonen.or.jp/honbu/?page_id=6033)

セミナーの趣旨として、「青少年」はあるが「地域」はありません。一枚看板です。ところが、修了後に期待することとして、いきなり「青少年」と「地域」の二本立てになっていて、矛盾しています。その矛盾を埋めるべく、平成 29 年度のカリキュラムのリニューアルでは、「地域」が全面的に出てきました。

次に、「ふるさとひょうご創生塾」を見ます。

### ふるさとひょうご創生塾

ふるさとひょうご創生塾は、魅力あるリーダーシップを持った、ふるさとづくりの新しい地域リーダーを育成するため、基礎的な力を実際の地域活動で応用できる力へとスキルアップを図る場として、平成 8 年に開塾しました

<https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/sousei/index.html>

こちらは「地域」という言葉ばかりが並んでいます。一枚看板です。そして、終了後に期待されているのも「実際の地域活動」です。

そもそも、タイトルに「ふるさと」という文字が入っています。この「ふるさと」の定義が示されていないので、一般的な意味を調べてみました。

ふる - さと【古里／▽故里／▽故▽郷】
1 自分の生まれ育った土地。故郷(こきょう)。郷里。
2 荒れ果てた古い土地。特に、都などがあったが今は衰えている土地。
3 以前住んでいた、また、前に行ったことのある土地。
4 宮仕え先や旅先に対して、自分の家。自宅。
<a href="https://www.weblib.jp/content/%E3%81%B5%E3%82%8B%E3%81%95%E3%81%A8">https://www.weblib.jp/content/%E3%81%B5%E3%82%8B%E3%81%95%E3%81%A8</a>

「ふるさとひょうご創生塾」の「ふるさと」は、どれにも該当していません。「自分の生まれ育った土地」でも、「以前住んでいた、また、前に行ったことのある土地」でもありません。まして、他の二つでもありません。

兵庫県知事、あるいは、兵庫県庁の視点では、「ふるさと＝兵庫県全体」なのでしょうが、我々が行動の対象にするには大きすぎます。我々の解釈としては「ふるさと＝今住んでいる地域」がよいのではないのでしょうか。それなら具体的に働きかけられるでしょう。

二つの事業の主目的は「次代を担う青少年の健やかな成長や夢の実現を応援する人材を育てるセミナーです」および「ふるさとづくりの新しい地域リーダーを育成するため」と、人材育成にあります。では、何故、両者とも、地域にこだわるのでしょうか。

人材育成が目的ではあるが、それが最終目的ではありません。人材を育成してどうしたいのか、人材育成は何らかの目的を達成するための手段でもあるはずです。

ふるさとひょうご創生塾では、基礎的な力を実際の地域活動で応用できるような地域リーダーを育成するというので、「実際の地域活動」をしてほしいことを最初から明示しています。こころ豊かな人づくり 500 人委員育成事業では、「次代を担う青少年の健やかな成長や夢の実現を応援する人材」に、地域づくり活動に積極的に参画することも期待しています。

## 参考情報

「ふるさとひょうご創生塾（ふるさとひょうごそうせいじゅく）」（鬼本英太郎）／生涯学習研究 e 辞典

<http://ejiten.javea.or.jp/content12f6.html>

## 2. 身近で展開されている地域活動

地域活動を論じるには、地域活動とはなにかを定義しなければなりません、ここではまず、地域活動のイメージを共有したいと思います。

「西灘元気プロジェクト」の活動を見ていきます。

<https://www.facebook.com/search/top?q=%E8%A5%BF%E7%81%98%E5%85%83%E6%B0%97%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88>

「ラジオ体操は毎朝、雨が降らない限り 6 時 30 分から西灘公園でやっています。」時々、公園清掃や茶話会を開催しているようです。以下、2022/04/02 記事より。

「令和 3 年度(2021. 4. 1～2022. 3. 31)ラジオ体操の参加者数など。延参加者数 6, 216

人。延活動日 338 日。1 日平均 18.4 人。茶話会 8 回。公園清掃 7 回」。

[https://www.facebook.com/permalink.php?story\\_fbid=1600638090305819&id=699974620372175&\\_\\_cft\\_\\_\[0\]=AZXakIL9bfg2cE2opaTRvDeZLON00prP3GVCoxjoxlX8ASbc4s\\_7pb9HepqnPKMgRFek-e11je8qhFH31m6vaAfcum\\_WBa5eg0ygrynL0qpiS5K24Jg-w3Lwp92WmoadzL0&\\_\\_tn\\_\\_=%2C0%2CP-R](https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=1600638090305819&id=699974620372175&__cft__[0]=AZXakIL9bfg2cE2opaTRvDeZLON00prP3GVCoxjoxlX8ASbc4s_7pb9HepqnPKMgRFek-e11je8qhFH31m6vaAfcum_WBa5eg0ygrynL0qpiS5K24Jg-w3Lwp92WmoadzL0&__tn__=%2C0%2CP-R)

雨が降らない限り、毎朝体操。単純明快です。しかし、これほど素晴らしい地域活動はありません。というのは、いくつもの大切な要件を満たしているからです。

- ① 地域の人が、主催し、運営している
- ② 地域の人が、参加している
- ③ 誰でも気楽に参加することができる（ラジオ体操するだけ。会場まで歩いて来られる人は、誰でも参加できる。92 歳の人も参加）
- ④ 参加を希望する人は、誰でも受け入れる（和を乱すような人はだめだが、朝早く起きてラジオ体操をしにくるような人に悪い人はいないのではないか）
- ⑤ 参加する人にメリットがある（体を動かして健康によい、朝起きの習慣ができ良い一日が始まる、皆でやるから続けられる、楽しい、無理なく人と接することができる、など）
- ⑥ 地域にメリットがある（顔なじみが増え、何気ない挨拶が増える。地域意識が芽生える。参加している人は心がオープンになる→オープンマインドの人が増える→地域がオープンマインドになる）
- ⑦ 公園なので会場費は要らない。音楽は、ラジオの音声を生で流している
- ⑧ 継続して開催できている（単発のイベントなら、その時に頑張ればできる。継続的なイベントは、息の長い努力が必要だ。そのイベントに魅力がないと誰も来てくれなくなる。継続できていることは、そのイベントに魅力があるからである）

### 3. 地域活動の定義

#### 3.1. 一般的な定義

例えば、次のよう記事があります。

「地域活動のススメ すべての世代がひとつになれる、とっておきの方法」（新谷和代・著）

地域活動とは、地域のコミュニティの中で住民が主体的に行う活動である。

祭の運営、あいさつ運動、キャンプなど、内容は多岐にわたる。

そこでは、小さな子供から学生、社会人や主婦まで、年齢や立場の隔てなく「地域」というつながりのみでつながり、ともに活動していく。

地域活動は、青年や少年たちに大きな成長を促す。年長者は年少者の世話をすることで、年少者は年長者に導かれることで成長することができるのだ。

また、地域活動には学校や家庭、会社など、自分の所属するコミュニティ以外の居場所を作ることで、視野を広くするという働きもある。

インターネットでの希薄なつながりでは得られない充実が、そこにはあるのだ。

<https://www.gentosha->

[book.com/products/9784344917026/#:~:text=%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81%E5%9C%B0%E5%9F%9F,%E3%81%A8%E3%82%82%E3%81%AB%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%8F%E3%80%82](https://book.com/products/9784344917026/#:~:text=%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%80%81%E5%9C%B0%E5%9F%9F,%E3%81%A8%E3%82%82%E3%81%AB%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%8F%E3%80%82)

### 3.2. ここでの定義

ここでの地域活動を定義します。いずれも、具体的な特定の地域（〇〇地域）を対象にします。「全国、どこにでも行きます」は、ここでは「地域活動」としての検討対象に入れません（「地域にとって意味がない」ということではありません）。

#### A型 継続的な地域活動

A 1型 その人が現に住んでいる地域を対象にして、その地域の人々（自分も含めて）のために活動している

A 2型 自分の住んでいる地域ではないが、ある特定の地域を対象にし、その住民の活動に参加・協力している

A 3型 地域の人々からの要請により、あるいは、地域の人を巻き込んで、団体や個人が、コーディネーターのような形で、地域の人々のために活動している

#### B型 散発的な地域活動

特定の地域の人を対象とした、一回限りのイベント

「地域活動とは、地域のコミュニティの中で住民が主体的に行う活動である」とするならば、「その人が現に住んでいる地域を対象」にするということになり、A 1型が主流になります。A 1型に他地域の人が協力すると、その人にとってA 2型・A 3型になります。

B型は、ここでは検討対象にしません。B型を繰り返すと、A型になります。

## 4. その他の身近な地域活動の事例

### 4.1. すまっこ寺子屋（須磨っこ Terra 小屋）

「学び合い 他者のために」をモットーにより良い須磨区を目指し、居場所のネットワークづくりをしているボランティア団体」です。

<https://www.facebook.com/%E3%81%99%E3%81%BE%E3%81%A3%E3%81%93%E5%AF%BA%E5%AD%90%E5%B1%8B->

[388369038613760/?\\_\\_cft\\_\\_\[0\]=AZVZLlp1BWsJx5EZvyt9y5QYreF0gLvccrKfH9pNLUhRoQ8LU4EkninBgP1-z1FPxuwV8DtMyHDWObqeFyWtBo.j20MeEHBk1X77mWaqgCHaj6SXx0I-cH60CDILVq7G3jXS-q9zkibHrUlg4E20jxRq7&\\_\\_tn\\_\\_=-UC%2CP-R](https://www.facebook.com/388369038613760/?__cft__[0]=AZVZLlp1BWsJx5EZvyt9y5QYreF0gLvccrKfH9pNLUhRoQ8LU4EkninBgP1-z1FPxuwV8DtMyHDWObqeFyWtBo.j20MeEHBk1X77mWaqgCHaj6SXx0I-cH60CDILVq7G3jXS-q9zkibHrUlg4E20jxRq7&__tn__=-UC%2CP-R)

板宿にあるお寺（信行寺）の副住職さん（今は住職さん）の奥さん（米田悦子さん）が始めて、様々なイベントを催してきました。どんどん、輪が広がってきています。

会則では、「第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。（1）地域社会活性化事業を行う。（2）地域福祉事業を行う。（3）地域間交流などの事業をおこなう。（4）ふるさと須磨区の未来を創造する勉強会などを開催する。（5）その他、明るい社会に貢献する活動を行う。」とされているようです。

最近では、「みつけ世界市」に、シェグニの子どもたちの『窓Tシャツ』を出展しました（ミャンマー支援）。他に、森田農園とか、スマホ教室などをやっているようです。

会則で「地域」を重視していますが、狭い地域ではなく、「参加者は概ね須磨区の居住



者です」というように、須磨区という少し広いレベルでの「地域」を対象にしているようです。

#### 4.2. 明舞まちづくり委員会

明舞団地は、「明舞まちづくり委員会」を再生計画においてリーディングプロジェクトに位置づけ、「明舞センターのハード面での再生が進み、地域の再生への機運・期待が高まりつつあります。」としています。

<https://meimai.hyogo-jkc.or.jp/committee-2.html>

その上で、

明舞まちづくり委員会 サポートメンバーの募集について

明舞まちづくり委員会では、会議に随時参加する「コアメンバー（地域代表や行政機関で構成）」のほかに、明舞団地の再生を応援するものなら誰でも登録可能な「サポートメンバー」で構成されます。サポートメンバーにご登録されますと、委員会に参加できるほか、委員会の開催案内・記録の送付その他のサービスを提供いたします。

この委員会に参加することは、先に述べたA3型地域活動に関わることとなります。

#### 4.3. 身近な活動についてのまとめ

身近な活動として、西灘元気プロジェクト、すまっこ寺子屋（須磨っこ Terra 小屋）、明舞まちづくり委員会を紹介しました。これらは、神戸交流会の会員が関与しているものです。

神戸交流会の会員で、居場所を運営している人もいるのではないかと思います。把握できませんでした。他にもありそうな気がしますが、私が知っている範囲で紹介しました。紹介できていない点、ご容赦ください。

ここで紹介した活動は、創生塾「発」ではありません。活動している人が、創生塾神戸交流会の会員だったということにすぎません。創生塾神戸交流会が発案したわけではなく、活動を手助けしたわけでもありません。

なお、自治会活動なども地域活動に位置づけられますが、自治会活動などについては、後に紹介します。

### 5. 地域活動を担う人の育成の現状

#### 5.1. CS神戸の地域貢献ゼミナール

認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸（CS神戸）が、地域貢献ゼミナールを開催します（7/8, 22, 7月下旬（実習）8/5, 19, 9月（フォローアップ））。

[https://www.cskobe.com/uploads/2022\\_tiikikouken.pdf](https://www.cskobe.com/uploads/2022_tiikikouken.pdf)

カリキュラムは、理論編、実習編、フォローアップからなっています。理論編では、中山幾郎教授の講演の後、ボンジュール紙芝居（文化）、リフレッシュ船寺（スポーツ）、こどもワクワク食堂（子ども）、つどい場コスモス（高齢者）、認定NPO法人フードバンク関西（食）、NPO法人実用日本語教育推進協会（多文化共生）が紹介されます。実践編は、実習の振り返りから始まり、事業計画シミュレーションワーク、事業計画です。

## 5.2. 創生塾のしてきたこと

詳しい説明は必要ないでしょう。創生塾とCS神戸とパターンは似ています。違うのは、創生塾は2年間しっかりかけ、2年目には実践が伴うこと、創生塾はリーダー育成を目指す一方、CS神戸のゼミナールは「地域活動団体への参加や、仲間との新たなグループの立ち上げのきっかけづくりに役立ちます。これまでの経験を地域に役立てたい方、一緒に活動する仲間がほしい方の参加をお待ちしています」と間口が広がっています。

## 6. 伝統的な地縁組織による地域活動

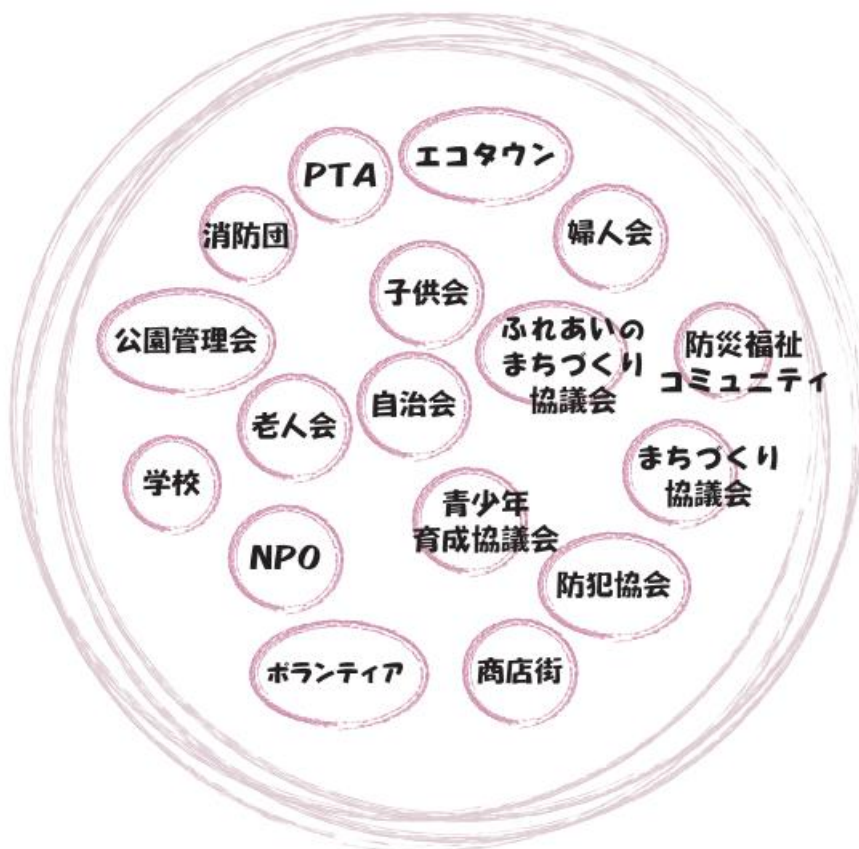
これまで見てきた地域活動とは異なる地域活動があります。CS神戸のゼミナールは、「地域活動団体への参加」と「仲間との新たなグループの立ち上げ」の両方を見ています。ただし、「地域活動団体への参加」は「参加してください」で終わるが、「仲間との新たなグループの立ち上げ」は、それではすみません。必然的に後者に的を絞ったゼミナールになります。創生塾も、だいたい同じだったと思います。偏っています。

しかし、「仲間との新たなグループの立ち上げ」るまでもなく、既に多くの地縁組織による活動があります。そして、その活動は、危機に瀕しています。こちらも大切です。

### 6.1. 「地域活動ちえぶくろ」における地域活動

「地域活動ちえぶくろ」より
地域活動を進めるにあたって 活動を進めるうえで必要な地域団体とのおつきあい 神戸市内の主な地域団体を知っておきましょう 自治会 婦人会 ふれあいのまちづくり協議会 防災福祉コミュニティ 青少年育成協議会 まちづくり協議会 さまざまな地域の担い手 … NPO について知っておきましょう
次項以降で紹介する団体以外の、いろんな地域団体 子ども会 まちの美緑花ボランティア 民生委員・児童委員 その他、 環境に取り組むエコタウンまちづくり 防犯協会 PTA 学校施設開放運営委員会 など様々な団体があります。
<a href="https://www.city.kobe.lg.jp/documents/3215/tiikikatudoutiebukuror204.pdf">https://www.city.kobe.lg.jp/documents/3215/tiikikatudoutiebukuror204.pdf</a>

自分住んでいる地域の、上のような地縁組織(\*)に加入して活動すれば、先に述べた分類で、「A型 継続的な地域活動の中の『A1型 その人が現に住んでいる地域を対象にして、その地域の人々のために活動している』」に該当します。ここに挙げられた地縁組織はそれぞれ、会員不足、後継者不在に悩んでいます。



(\*) 左に示す団体のほとんどは、その地域の人による、その地域のための活動で、ここでは「地縁組織」という言葉を使いました。先のCS神戸のゼミナールで紹介している多くは、「地縁組織」でない「地域団体」です。

なお、左図のNPOは地縁組織の場合も、そうでない場合もあります。

## 6.2. 地域活動デビューの手順

地域活動を何も知らない人が、いきなり「仲間との新たなグループの立ち上げ」て、というのは、ハードルが高すぎます。地域活動には、地域ごとにしきたりみたいなものがあるし、地縁組織固有の人間関係は職場のとは全然違います。対象地域の人、特にキーマンとの信頼関係、周辺の地縁組織との連携もないまま、新たに地域活動をしようとしても、そう簡単にはいきません。そもそも、その地域のニーズ、問題点もわからないまま、思い込みでチームを立ち上げても、なかなかうまくいきません。

地域活動に本気で携わるつもりなら、これらの地縁組織の地域活動のどれかに先ず入って活動することを勧めます。どこかに入ってみて、でも合う・合わないがあるから、違うなと思えば他の地縁組織に移ればよいでしょう。このような活動をしていると、上に挙げた欠けたものが、どんどん見えてきます。

ただ、既存の組織に入るということは、自分の思いのままできないことでもあります。自分が必要だと思っても、組織としてはなかなか合意してくれないこともあります。地縁組織が古い体質で、ボスがのさばっていて、思うように動けないこともあるでしょう。地域にこれが本当は必要だと分かっても、思うように動けずもどかしくなっていくと思います。その時点が、「仲間との新たなグループの立ち上げ」を始めるときです。既存の組織で意識して動くと、「地域ごとのしきたり」「地縁組織固有の人間関係」「キーマンとの信頼関係」「周辺の地縁組織との連携」などが分かり整ってきます。同じ志を持った人がい



たら、立ち上げた新たなグループに仲間として入ってもらいます。

ところが、CS神戸も、創生塾もそのようなことは言わない。なぜなら、「まず地域の地縁組織に入って、それから、飛躍しましょう」というと、ゼミナールも塾も、することがなくなってしまうからだと思います。それが、地域デビューをミスリードしているように、私には思えます。ミスリードされたから、なかなか動けないのだと思います。

### 6.3. 鬼頭講師の教え (2022/03/13)

実は、2022/03/13の「ふるさとひょうご創生塾卒塾生の地域づくり活動での活躍に向けて」とい講演で、既に鬼頭参与から教えを受けています。

「ふるさとひょうご創生塾卒塾生の地域づくり活動での活躍に向けて」 2022年3月13日 創生塾神戸交流会 鬼頭参与
(3) 地域づくり活動への飛躍に向けて
① 自己PR
② とにかく勇気をもって門をたたいてみる 創生塾の認知度が低い以上、卒塾生は待っていても地域から声がかかることはない。一方、地域は地域づくりの人材不足で戦力になる人材を求めている。まずは勇気を持って地元地域の地域づくりの団体（自治会など）の門をたたいてみるのが重要である。地域は喜んで迎えてくれるはずである。
③ 地縁型組織の改革を試みる 前項で自治会など地縁型組織の活発な活動に向けた提案を行った。地縁型自治組織の内部に入り、組織改革を図ることがひじょうに重要である。「事業の棚卸しを行い、自治会役員の負担を軽減する」「若者や女性の役員登用を進め、若者や女性の視点の事業を取り入れる」「地縁型組織単独での活動の限界を認識し、地元のNPOや民間企業とのコラボレーションを進める」「小規模多機能自治組織への変革を検討する」などの見直し検討を進める。ただし、後から地縁型自治組織に加入して、いきなり組織改革を提案すると反発も大きいことが予想されるので、まずは信頼を得ることから始めることが肝要である。
④ 卒塾生でネットワークをつくる
<a href="https://www.hhskkk.com/_files/ugd/4dea8b_d59de9e759b84539bc3d368a945457e5.pdf">https://www.hhskkk.com/_files/ugd/4dea8b_d59de9e759b84539bc3d368a945457e5.pdf</a>

## 7. 私の体験談から (1) 自治会活動をめぐって

先に述べた「6.2. 地域レビューの手順」は、頭の中で考えた理屈ではなく、藤波が実践を通じて到達した結論です。

私は、退職後、500人委員会、社会貢献塾（CS神戸）、創生塾などで活動しましたが、結局、地域活動とは何かが分からず、現に私が住んでいる地域に何ができるかわかりませんでした。それが、自治会長を引き受けたことで、一変しました。

### 7.1. 関守町2丁目自治会 会長として

私の住んでいる地域では自治会役員の任期は2年で、再任は妨げない規約になっているが、実際に毎回6人が総入れ替えになってきました。私も2年間自治会長を務めて、やめました。

1年目は「ようこそ！関守町2丁目へ」、2年目は「暮らしやすいまち委員会」で、自治会のあり方について検討しました。メンバーは、関守町2丁目および周辺地域の自治会役員経験者9人と、周辺の地域組織からの3人です。周辺の地域組織としては、区社会福祉協議会(\*)、あんしんすこやかセンター(\*)、福祉系NPO法人からで、組織的に対応してくれたのではなく、500人委員会活動で築いた個人的な関係で参加してくれました。

同じ期の自治会役員の一人は、民生委員・児童委員であり、ふれあいのまちづくり協会の役員もしてきました。また、婦人会、防災福祉コミュニティ、学校施設開放運営委員会ともパイプができました。この三つは、同じ人を通じてです。周辺の地域組織と良好な関係にあります(\*「地縁組織」とは言えないので「地域組織」と表現しました)。

基本的な認識としては、

- ・ 少子高齢化が進み地域力がますます必要になったのに、地域力は弱体化し続けている
- ・ 地域力が弱体化して自治会が弱体化し、自治会が弱体化して地域力が弱体化するという悪循環に陥っている。これを好循環に変えなければならない
- ・ 自治会役員を経験すると、地域に対する認識が一変する。毎回自治会役員が入れ替わると、自治会経験者が継続的に生み出される。この人たちは、地域にとって宝だ
- ・ 以前は役員供給源だった退職後男性の多くは、今では働き続けて、役員候補として期待できなくなった。高齢でも、介護中でも、働いていても、子育て中でも、経験が少なくても、役員を引き受けられるよう、自治会を改革しなければならない
- ・ そのために、自治会が担っている役割を削ぎ落とし、そのうえでその期の役員がやりたいことを付加すること、マニュアル(ガイドンス)を整備すること、支援ITを整備することなどが有効だ。自治会を支援する組織もほしい。

<https://24suma.net/wp-content/uploads/2021/04/05copy%E3%81%A4%E3%81%AA%E3%81%8C%E3%82%8B%E4%BA%A4%E6%B5%81%E4%BC%9A%E3%83%BB%E8%AA%AC%E6%98%8E%E5%8E%9F%E7%A8%BF.pdf>

## 7.2. 自治会を支援する会・西須磨

自治会長を退いたのち、周辺の地域組織の人が外れ、役員経験者が残り、「自治会を支援する会・西須磨」を立ち上げました。上記認識を実現に移すためには、個別の自治会の努力のみでは難しく、自治会の自治マインドを維持したまま、外部からの支援を受けることが必要であり、その支援を提供する組織として立ち上げようとなりました。

<https://24suma.net/>

須磨区から地域提案型活動助成をいただき、活動しています。毎年審査があり、合格すれば最大3年間支援を受けられます。2年間支援を受け、現在3年目の助成を申請しています

基本的な認識としては、

- ・ そこに住んでいる人が暮らしやすいまちになることが何よりも大切だ。特に、弱い人や困っている人が暮らしやすくなるのが肝要で、彼らにとって暮らしやすいまちになったら、そのまちはすべての人にとって暮らしやすいまちになるに違いない
- ・ 暮らしやすいまちとして、三つの指標を考える

- ① 認知症になっても自由に歩き回れるまち … 近所の人には誰が認知症かを把握して、まち全体で、認知症の人を守る
  - ② 大規模震災が起こったとき、自発的に助け合えるまち … すぐには行政が来てくれないことは先の震災で分かった。助けに来てくれるまでは、自助努力しかない
  - ③ ヤングケアラー（人知れず困っている人）がいたら、それを発見し公的支援に結びつけるまち … 発見し、通報するまででもよい
- ・ 三つ書いたが、一つしかない。周囲を見渡し、困った人がいたら、手を差し伸べる。ただ、そのことだけ。三つのうち一つでもできたら、他の二つもできるようになる
  - ・ 日頃の関係性をいかに作るかが大切。日頃挨拶している人には、いざというときも声をかけやすい
  - ・ 夏祭りのような伝統的行事でなく、最近多い居場所のようなつどい型ではなく、テーマ型を目指す。例えば、認知症声掛け訓練。目的が明確な、人との触れ合いの機会を創出したい
  - ・ 周辺の地縁組織の協力は、絶対に欠かせられない。これまで得た良好な関係を活かしたい。また協力して一つのことに関与することにより、関係性は深まる
  - ・ リアルな関係性のみではなく、バーチャルな関係性も目指す。そのために、ホームページによる情報共有を含め、様々なICT（Information and Communication Technology＝情報通信技術）を活用する

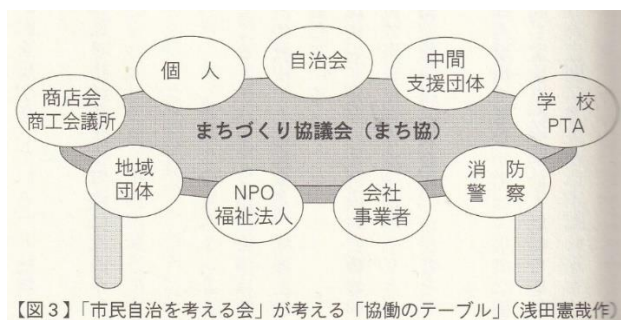
## 8. 私の体験から（2） 最近、出会った人々

様々な人が、地域活動に真剣に関わろうとしています。

### 8.1. 亀川甲さん

亀川さんは創生塾卒（15期）で、神戸交流会で講演もしていただきました。著書「宝塚市、尼崎市、そして市民 ～ 74歳の壮大な夢に～」の冒頭で、活動の背景に三つの柱があるとしています。すなわち、①今日まで一貫して持ち続けている「地域コミュニティ」の活性化、②市民サークル「市民自治を考える会」の活動をとおして、地方分権下の市民によるまちづくりへの先鞭をつけた宝塚市の「宝塚モデル」をケーススタディ、③ざっくり「市民自治」の重要性を国民的に共有し高めていくことへの模索、です。

宝塚モデルの理念としては、『まち協』は小学校区内の個人や、『単位自治会』を含めたあらゆる組織の人々が集まって地域課題を協議するところで、『協働のテーブル』を主催するところが『まちづくり協議会』である、ということです。（アンダーライン追記）



鬼頭参与の講演での「小規模多機能自治組織」に符合しているように思えます。

「ふるさとひょうご創生塾卒塾生の地域づくり活動での活躍に向けて」

2022年3月13日 創生塾神戸交流会 鬼頭参与 … 前出

#### (4) 地域自治的組織への展望

近年、自治会という地縁型の自治組織の課題や限界を踏まえた上で、地縁型の組織の重要性を認識し、小規模多機能自治組織が注目されている。小規模多機能自治組織は、エリアが従来の自治会よりも大きい小学校区程度にすることで構成員を増やし、構成員は世帯単位ではなく個人単位を基本とすることで構成員としての自覚を促す組織としている。また地域の自治会や婦人会、子ども会、NPOなども構成として取り込み、一定の専門性も向上させた組織となっている。従来の行政が担っていたような機能も一定この組織が担い多機能な組織とし、そのかわりに行政からも適切な補助金を得て、またコミュニティビジネスなども実施して資金も確保して活動する組織である。こうした自治組織の立上げも検討することが重要である。(アンダーライン追記)

[https://www.hhskkk.com/\\_files/ugd/4dea8b\\_d59de9e759b84539bc3d368a945457e5.pdf](https://www.hhskkk.com/_files/ugd/4dea8b_d59de9e759b84539bc3d368a945457e5.pdf)

大切な課題だと思います。

なお、神戸市では、ふれあいのまちづくり協議会と防災福祉コミュニティは小学校区をテリトリーとしていますが、各々固有の役割を担い、地縁組織の一つとして位置づけられています。

(追記) 亀川さんから、総務省のRMOというものがあると教えていただきました。星さん(8.2.で登場)によれば、小規模多機能自治やRMOについては、尼崎市が6年前に「自治のまちづくり条例」を制定する経緯の中で知っていたそうです。

調べてみました。補足説明すると、

総務省は、平成26年(2014年)4月10日に、「RMO(地域運営組織)による総合生活支援サービスに関する調査研究報告書」を公表したが、その後目立った動きはないようです。

[https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01gyosei09\\_02000026.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei09_02000026.html)

RMOは、中山間地、過疎地、農村などを対象とし、生活機能を支える事業(総合生活支援サービス)の展開に重点を置いているようで、最近では、農林水産省が「農村型地域運営組織(農村RMO)」を唱えて予算化しています。

一方、小規模多機能自治推進ネットワーク会議の設立総会は、三重県伊賀市、名張市、兵庫県朝来市、島根県雲南市の4市が設立発起人となり、2014年2月に東京都内で開催されました。142の自治体に加え、地方行財政、コミュニティ政策を支える学識者も参加し、政府に対し法整備などの政策提言をしています。

なお、星さんによれば、島根県雲南市が、小規模多機能自治推進の実践のひとつとして「おせっかい会議」というのを立ち上げています。

[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/osekkaiunnan/](https://peraichi.com/landing_pages/view/osekkaiunnan/)

#### 8.2. 星英光さん

星さんは、一昨年8月までは、兵庫県尼崎市役所に36年間勤務し、そのうち21年間は公民館(5年)・図書館(16年)の「社会教育分野」で過ごし、特に公民館在籍時の「人と人との縁を繋ぎ、学びにより、地域課題解決を図る」取組にすごくやりがいを感じていまし



た。

早期退職後、①生涯学習コーディネーターとしての講師・ファシリテーター活動をし、②4月から毎週日曜日(10:15~14:45)JR尼崎駅前のあまがさきキューズモール(ショッピングモール)で「地域のお悩みコンシェルジュ」に従事。ちなみに③2022年2月には行政書士の登録をしました

[https://qs-mall.jp/amagasaki/s/event/?cmd=detail&evt\\_id=2152&jump=pc](https://qs-mall.jp/amagasaki/s/event/?cmd=detail&evt_id=2152&jump=pc)

星さんの目指す理念は、「山積する地域での様々な課題を、地域住民の一人ひとりが正しく知り、ご縁を築きながら、共感を得て、学びつつ、自身のできる範囲で、その解決に寄与していくことにより地域共生社会を創り上げ、お互いがウインウィンになれる」しかけ創り。地域活動の支援に尽力しています。

### 8.3. オンバダ香織さん

オンバダさんは、青年海外協力隊の隊員(看護師)としてセネガル(アフリカ大陸の西)で2年間活動し、帰国後、一般社団法人ボック ジャンバル(Bokk Jambaar)のメンバーとして活動中です。

<https://www.facebook.com/Bokk.Jambaar/>

現地での滞在体験をもとに、イスラム教徒であるセネガルの人たちの日常生活・生き方・考え方および「アフリカ体操」に関する講演を興味深く拝聴しました。

ボック ジャンバルの事業は、4つあります。①教育事業(セネガル)、②保健事業(セネガル)、③ものづくり事業(セネガル・日本)、④Africare 地域づくり事業(日本)ですが、私が注目したのは、④です。~コミュニティ機能の希薄化・孤独化が深刻な社会課題となっている日本においてアフリカのような「つながり」を感じられる社会をモデルとし、地域の人々や他団体と協働して人々が交流できる場をつくり、一人ひとりの身体的・精神的・社会的な健康の促進に努めます。

特定な地域を対象としていませんが、藤波が自治会活動経験を通じて定めた目標と同じことを語っています。「日本に帰ってきたら、日本人はうつむき、暗い顔をして歩いている。経済的にも、環境的にも厳しいセネガルの人達の方が幸せそうなのは、何故? 日本人は、どうすれば良いの?」という問が出発点のようです。

具体的に何ができるかはこれからの課題ですが、地域活動を考え推進する際に、重要な示唆を与えてくれます。

### 8.4. 松井由子さん

松井さんは、姫路聖マリア病院でホスピスボランティアを続ける傍ら、ホスピスボランティア養成講座を受講し、その修了者を構成員とする神戸つむぎの会の代表を務めています。つむぎの会は、病院や老人施設でホスピスボランティアをしている人が中心になっているが、今後、在宅で死を迎える人が増えることが予想される中、在宅でもホスピスボランティアを受けられるよう、検討・準備を重ねています。

藤波はその趣旨に賛同し、病院、訪問看護センター、あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)、区ボランティアセンター(須磨区社会福祉協議会)、地域の福祉NP



○法人と連携することにより、実現できるよう働きかけたいと思っています。ボランティアがご自宅の中に入ることには難しさがありますが、これが実現できると、須磨区において、自宅で少しでも安らかに死を迎えられるようになると期待しています。これも、地域活動の一環と考えています。

#### 9. ふるさとひょうご創生塾神戸交流会のこれから

ふるさとひょうご創生塾神戸交流会は何者かについて、二通りあると思います。

(a1) 卒塾生が交流する場である

(a2) 卒塾生が学んだことを生かす場である

ふるさとひょうご創生塾神戸交流会の活動の方向性について、二通りあると思います。

(b1) 私たちは何をしたいか

(b2) 私たちは何を求められているか

現状の活動を見ると、ほぼ(a1) (b1)になっていると思います。それに対して、ここでは(a2) (b2)の可能性を探ろうとしました。具体的には、(b2)私たちが求められているのは地域活動である想定したうえで、どのようにすれば(a2)の場にすることができるかを考えようとしてきました。

その際、そもそも地域活動とは何かという共通認識が必要なので、ここでの定義を示しました。そのうえで、地域活動の事例を、できるだけ幅広く見てきました。それは、(a2)学んだことを生かされた場合、その結果どのようなようになるかをイメージするためです。言葉による定義だけでは、具体的にイメージできません。目標・到達点が見えてこそ、そのために何をすべきかが見えてくると考えます。

(a1) (b1)がよいと思う会員は、今の方針でよいと思います。一方、それでは飽き足りず、(a2) (b2)を求めたいという会員もいるのではないのでしょうか。

(a1) (b1)以外にも選択肢があることがわかり、(a2) (b2)を目指す人に何らかのヒントがあれば、幸いです。

ふるさとひょうご創生塾はなくなったけれど、我々が生きている世界は、以前よりまして地域活動が求められているのではないのでしょうか。

以上